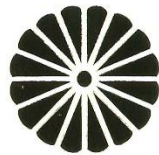


深 松 勇 殿

平成27年 春の叙勲 旭日雙光章  
受章を祝う会



主催 深松 勇殿 旭日雙光章 受章を祝う会

## \* 功績の概要 \*

昭和35年3月、日本大学工学部土木工学科を卒業後、同年4月、前田建設工業株式会社に入社、その後、昭和39年5月、御尊父が経営していた株式会社深松組に入社、主任技術者として技術の習得と併せ会社経営の基本習得に努め同年取締役に、同44年には代表取締役副社長に就任し、企業の運営、経営基盤づくりに日夜奔走努力され、昭和47年3月に代表取締役社長、平成20年4月に代表取締役会長に就任されました。

以来一貫して建設業の経営に精励し、官民両面に亘る建設工事の受注に積極的に取組み、地域産業経済の発展に大きく寄与されました。

特に会社の経営にあたっては、卓越した識見と旺盛な責任感をもって経営の合理化と技術の向上に努められ、発注者の全幅の信頼を受け、その施工成績は極めて優秀であり、地元建設業者の中核として確固たる地位を築いております。

昭和55年4月社団法人宮城県建設業協会仙台支部理事に就任され、平成元年9月、新たに社団法人仙台建設業協会が設立されると同時に副会長、同4年5月から同20年4月まで常任理事を務められ、大手業者と競合する支部会員の経営の合理化、施工技術の向上、災害防止の確立や労働者の雇用改善、福祉の向上等に尽力されました。

また、平成2年5月より平成20年5月まで社団法人宮城県建設業協会理事を務められ、協会事業活動の各般に亘り、進歩的かつ建設的な意見を開陳する等、常に協会の発展に尽力されました。

特に、平成2年5月より協会の内部組織である土木委員会の委員長を18年間務め、土木工事現場における諸問題をとりまとめ、各発注機関に対し毎年度要望活動を展開し、宮城県内土木工事の現場改善に大きく寄与するとともに、現東北地方整備局が土木工事に係わる施工技術の向上等を図るために、産・学・官の委員が調査研究を行う場として設置した土木工事合理化委員会において、地域建設業である東北6県建設業協会で構成する一般土木第二技術研究会の部会長を平成6年5月より14年間務め、土木技術の生産性、安全性、環境改善等に関するテーマを設定し、研究・提言に取組み、建設業における「労働時間短縮」や「生産性の向上」「施工の円滑化」「リサイクル推進」「書類の簡素化」「CALS推進」等、この間の技術成果が建設事業の効率的な推進に大きく寄与されております。

以上のように宮城県建設業界の発展に尽力された功績はまことに大きく、平成17年5月に黄綬褒章を受章され、そしてこの度めでたく旭日雙光章の叙勲受章に結びついたものであります。

受章者

深松 勇殿

(昭和十二年十月二十八日生)



旭日雙光章

深松組(仙台市)

「感動を忘れる  
ことなく精進」

深松勇会長の旭日双光章受章を祝う会

深松勇氏(宮城県建設業協会元理事、仙台建設業協会元副会長、深松組会長)の旭日双光章受章を祝う会が10日、仙台市の江陽グラウンドホテルで開催され、約

旭日双光章を受章した深松氏と元子夫人



200人が栄誉をたたえた。深松氏は、長年にわたる地元建設業の振興に尽力してきた功績が評価され、ことし春の叙勲で旭日双光章を受章した。

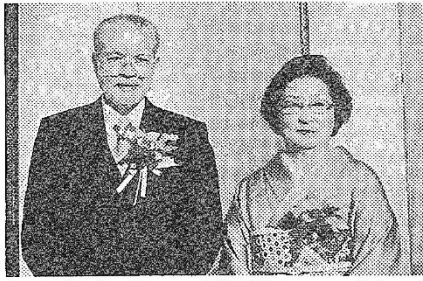
祝う会は宮城県建設業協会の佐藤博俊会長など5人

が発起人となって開かれた。発起人代表のあいさつに続いて、村井嘉浩宮城県知事が「深松氏は、卓越した識見と経営手腕を発揮され、地元建設業者の中核として地域経済の発展、本県の建設業の振興に長きにわたって貢献されてきた。今回の受章を心からお祝い申し上げます。本県の復興のため、一層のお力添えをお願いしたい」と祝辞を述べた。

また、深松氏と同じ富山県の出身で、宮城富山県人会の世話人も務めた井上義久衆議院議員が「ふるさとの先輩が、仙台の地で頑張ってきた長年の功績が評

価され、今回の受章はこれほどうれしいことはない。後輩として誇りに思う」とたたえた。

この後、記念品贈呈と花束贈呈が行われ、あいさつに立った深松氏は、「大学を卒業してから56年、学んだ分野を中心に導かれ、支援され歩んできた。まさか勲章拝受とは感慨無量。推薦いただいた宮城県建設業協会と奥田和男名誉会長に深く感謝申し上げます。この感動を忘れることなく精進し、微力ながら奉仕を重ねていきたい」と謝辞を述べた。



深松氏の叙勲祝つ  
宮城建協ら

15年春の叙勲で旭日双光章を受章した深松勇深松組会長を祝う会が10日、仙台市青葉区の江陽グランドホテルで開かれ

た。村井嘉浩宮城県知事や、西村明宏国土交通副大臣、井上義久公明党幹事長、建設業界関係者ら約200人が出席した。発起人を代表してあいさつした宮城県建設業協会の佐藤博俊会長は、深松氏が同協会土木委員長を歴任したことなどに触れ、「土木工事の現場改善に大きく寄与された」と、同氏の長年の功績をたたえた。深松氏は「この感動を忘れることなく精進していきたい」と謝辞を述べた。写真。

深松勇氏の旭日双光章受章

各界200人が祝う

建設通信新聞  
2015年7月14日掲載

元宮城県建設業協会理事の深松勇氏（仙台市、深松組会長）が旭日双光章を受章したことを祝い、10日に仙台市青葉区の江陽グランドホテルで祝賀会が盛大に開かれた。参加した各界の関係者約200人がその功績をたたえ、今後の一層の活躍に期待を寄せた。

深松氏は1980年に県建設業協会仙台支部理事に就任。その後も多くの要職に就き、県内建設業界の発展に尽力してきた。この功績から、05年には

黄綬褒章も受章した。

冒頭、発起人代表の佐藤博俊県建設業協会会長は、深松氏の卓越した行動力による協会事業

活動などを称賛した上で「今回の栄誉は、ご本人のみならず建設産業界にとっても大きな喜びだ」とあいさつした。

村井嘉浩県知事は「地元建設業の中核として、本県の建設業の振興と発展に長きにわたり貢献した功績は大きい。今後のさらなるご活躍を期待している」と祝辞を寄せた。

深松氏は謝辞の中で、「受章の栄に浴した感動を忘れることなく、皆さまに感謝するとともに、微力ながら奉仕を重ねていく所存です」と力を込めた。



受章した深松氏（左）と元子夫人